鳳凰山にまつわる話

大館盆地を囲む山稜のうち、東側には鍋越山・鳳凰山・秋葉山・鞍掛山などが美しい姿で連なっているが、そのうち鳳凰山は大館の象徴であり、市内で最も古い玉林寺の山号でもある。

鳳凰山に玉林寺があったころ、和尚を殺した猫が和尚になりすまして檀家まわりをしたが、油揚げを好むことから正体が割れ（一説には、風呂に入っているときに影が猫に見えたともいう）、腕じまんの武士が何人も寺に乗り込んだが返り討ちに合いなかなか退治できなかったが、ある時諸国漫遊の武士が見事討ち取ったという。また、鳳凰山の麓には漆塗の箱に入った埋蔵金が隠されているとも、何個もの大甕に漆を入れて埋めてあるともいわれ、昭和の初期に、長木の人が馬を放したら、足に漆をつけて帰ってきて大騒ぎになったことがあるという。

六一三